

[成果情報名]各種台木がモモ「夢みずき」および「なつっこ」の生育特性や果実品質に及ぼす影響

[要約]「払子(ほっす)」は、樹冠面積が大きく、収量も多い。「ひだ国府紅しだれ」は、樹冠面積が「おはつもも」より小さいが、収量は同程度で、果実肥大が優れ大玉比率が高い。

[担当]山梨県果樹試験場・栽培部・落葉果樹栽培科・池田博彦

[分類]技術・参考

[背景・ねらい]

凍害に強いとされる3種類の台木について、5年生までの枯死の発生状況、生育に及ぼす影響などについて、「払子」、「ひだ国府紅しだれ」で枯死症の発生が認められないとしてとりまとめた(令和元年成果情報)。しかし、台木がモモの生育に及ぼす影響は明らかになっていない、そこで、成木期(6～8年生)の樹体や果実品質について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「夢みずき」、「なつっこ」とも、「払子」の樹冠面積が最も大きい。「ひだ国府紅しだれ」は、両品種とも樹冠面積が最も小さく、「おはつもも」より小さい(表)。
2. 樹高は、「夢みずき」では台木間の差は見られないが、「なつっこ」では「富士野生桃」が高い。幹周は、「払子」が大きく、「ひだ国府紅しだれ」が最も小さい。各台木とも、「おはつもも」より幹周が小さい(表)。
3. 収穫量は、両品種とも「払子」が最も多い。「ひだ国府紅しだれ」は「おはつもも」と同程度で、「富士野生桃」はやや少ない(表)。
4. 果実品質は、両品種とも各台木で「おはつもも」に比べ果実肥大が良好である。糖度や酸度、着色には大きな差は見られない(表)。
5. 果実の大玉比率は、両品種とも、各台木で「おはつもも」より大玉比率が高い。「なつっこ」では「ひだ国府紅しだれ」で大玉比率が高い(図)。

[成果の活用上の留意点]

1. 本成果は、果樹試験場(山梨市江曾原:標高440m、褐色森林土、灌水設備あり)における樹齢8年生までの特性である。
2. 経営の状況や、枯死症の発生の有無を考慮して台木を選択する。

[期待される効果]

モモの台木の違いによる生育特性や果実特性が明らかとなり、作付け時の台木選択の基礎資料となる。

[具体的データ]

表 台木が「夢みずき」および「なつっこ」の生育や果実品質に及ぼす影響

品種	台木	8年生時生育状況(2022)				6~8年生時果実品質(2020~2022)				
		樹冠面積 (m ²)	樹高 (cm)	幹周 (cm)	収穫量 (kg/本)	果実重 (g)	硬度 (kg)	糖度 (°Brix)	酸度 (pH)	着色 ^{z)} (指数)
夢みずき	ひだ国府紅しだれ	19.5	403	48.0	60.6	376.7	2.3	14.3	4.8	4.3
	払子	37.3	403	65.7	87.6	377.7	2.4	13.9	4.8	4.2
	富士野生桃	26.8	409	55.2	54.6	353.4	2.3	13.5	4.7	4.0
	おはつもも(対照)	24.5	405	66.0	63.3	335.2	2.3	13.3	4.8	4.1
なつっこ	ひだ国府紅しだれ	27.3	402	53.1	79.7	439.4	2.3	13.8	5.2	4.8
	払子	35.8	397	58.0	96.6	394.0	2.2	14.6	5.2	4.8
	富士野生桃	31.5	428	53.9	76.5	403.2	2.3	14.2	5.1	4.6
	おはつもも(対照)	34.8	427	60.1	79.7	368.2	2.2	14.2	5.2	4.7

z): 着色は1(劣る)~5(優れる)の5段階で評価した

「夢みずき」は「ひだ国府紅しだれ」、「払子」、「富士野生桃」は2本、「おはつもも」は1本を供試した

「なつっこ」は各台木3本を供試した

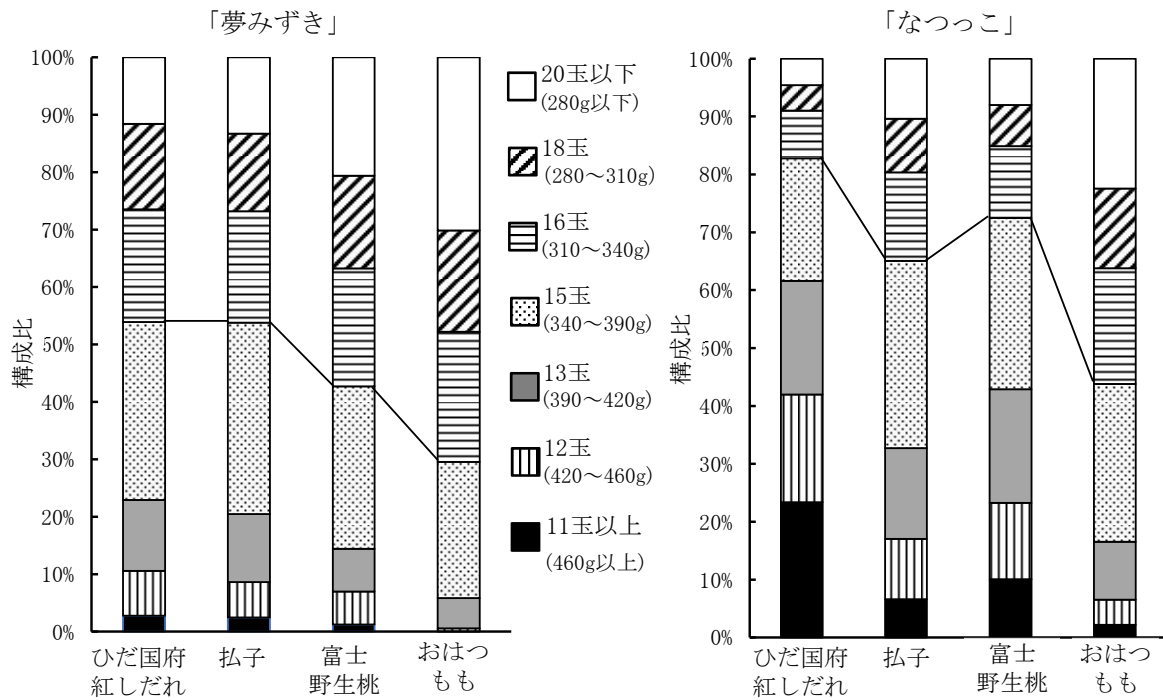


図 「夢みずき」および「なつっこ」の果実の台木別重量階級構成比率(2020~2022)

[その他]

研究課題名：モモ枯死障害を軽減する胴枯病対策技術の確立(重点化)

モモ優良品種の特性調査と栽培技術の確立(第6次)

予算区分：県単(重点化)、県単

研究期間：2020~2021年度(重点化)、2022年度(県単)、

研究担当者：池田博彦、芦澤勇太、石原雅広、綿打享子、内田一秀、鷹野公嗣、加藤 治、桐原 峻、國友義博